

## サマーキャンプ報告



H.E.Cサイエンスクリニック  
平山大徹

会長の中村慶子先生がライフワークとして力を入れている、小児糖尿病サマーキャンプ。毎年全国約50カ所で実施されています。日本糖尿病療養指導学会集では、3年前から各地のキャンプの魅力をポスター形式で紹介していますが、今回は、展示だけでなく発表の時間を設けて、18のキャンプの生の声を届けました。

今年は台風や地震など自然災害が多発し、キャンプも少なからず影響を受けています。キャンパーとスタッフの安全確保は、運営者にとって大きな課題となっています。そのため、ディスカッションでも、各キャンプで事前にどのような準備をしているのか、マニュアルにはどのような内容を記載しているのか、といった防災面に関する具体的な質疑応答が行われていたのが印象的でした。



## CDE Meeting

▶進行役



中村学園大学  
大部正代



松江赤十字病院  
佐藤利昭

このプログラムは、日本糖尿病療養指導学会の目的の1つ、地域糖尿病療養指導士（CDEL）の連携を実現するための意見交換会でした。大きなテーマとして、「CDELの質の向上」「CDELとしての活動」が設定され、各団体が現状や課題を報告しました。「質の向上」では、それぞれの認定・更新・研修の形を共有し、「活動」では、世界糖尿病デーでの街頭活動や市民講演会での役割が紹介され、地域の糖尿病啓発を下支えするCDELの役割が強調されました。

最後に清野理事長が、「CDELは、団体の歴史の長短にかかわらず、患者さんにより療養指導を行いたいという志を持つ皆さんの集まりです。お互いに助け合い、組織の成長を目指してほしい。日糖協は、地域の立場を可能な限り尊重して、各団体が自主的に活動できる環境づくりを目指し、療養指導士の活躍を支援したいと思います」とコメントし、拍手喝采を受けました。





## 釧路CDE研究会

### 夕日丹頂CDELの逆襲!

●古川真

2015年の「釧路糖尿病デー」から「釧路根室地域糖尿病療養指導士(夕日丹頂CDEL)研修会」を始めました。2018年7月で17名の夕日丹頂CDELが誕生しました!



この新しい仲間と共に「目の前の一人のために行動しよう!」「道東(DO TO)が1つになろう!」という「DO TO 1!」プロジェクトを展開中です!多くの方に「糖尿病療養」をする「力」と「こころ」を持っていただき、道東地域で糖尿病療養ができて「幸せだ」と言ってもらえることが目標です!

## 札幌糖尿病療養指導士認定機構

### 札幌糖尿病療養指導士(札幌LCDE)認定機構の立ち上げと今後の展望

●吉圭龍

今年(2018年)度設立集会を行い、認定機構を立ち上げました!できてホヤホヤ、産声を上げただけですが、地域により密着した活動を展開していきたいと理想を掲げ、日夜研鑽しております。今後は基礎講習会を行い、今年度末には第1期生が誕生する予定です。講習会、認定試験等の詳細はホームページ(<https://www.slcdc.com>)をご覧ください。



## 特定非営利活動法人 秋田県糖尿病対策推進協議会

### 秋田県糖尿病療養指導士3回目の認定更新を終えて

●齊藤美保子

2010年より「秋田県糖尿病療養指導士」の養成を開始し、3回の認定更新を終えました。現在660名の「秋田県糖尿病療養指導士」がそれぞれの施設や地域で活動していて、個々のレベルアップと資格維持、CDEJとの連携が必要だと考えます。昨年度からは新たな事業として、糖尿病腎症重症化予防などの施策に対応するための、糖尿病患者に対する療養指導に必要な知識習得のための研修会を県内3カ所で行い、154名の保健師、管理栄養士などが受講しました。今後は行政や地域とも連携しながら、活動をしていく必要があります。

## いわて糖尿病療養指導士会

### いわて糖尿病療養指導士会の歩みと活動

●櫛久美

1996年の「盛岡市糖尿病看護研究会」を皮切りに、Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(改善行動)を経ながら発足し、11年目を迎えました。昨年度の認定者は443名となり、質の担保のための勉強会を年4回程度実施し、広大な面積の岩手県において各地域での課題や将来に目を向け、予防や市民啓発に取り組む糖尿病療養指導を探るキックオフイベントとなり、活躍できることを目指しながら取り組んでおります。

## 山形糖尿病療養指導士認定委員会

### 山形糖尿病療養指導士認定制度がスタートです!

●諏佐真治

いよいよ山形県でも、今年度から地域糖尿病療養指導士認定制度がスタートします。2018年4月18日に第1回認定委員会を開催し、県内の有志33名が集まり、本制度の立ち上げを熱く語り合いました。ぜひ他県に劣らぬ糖尿病療養指導士のネットワークを立ち上げるべく鋭意、準備を進めております。認定講習会が10月28日、11月25日に、認定試験が2019年2月24日の予定です。多くの方の参加をお待ちしております!

## 宮城県糖尿病療養指導士認定委員会

### 宮城県糖尿病療養指導士、スタートしました

●玉山由紀

2016年に宮城県糖尿病療養指導士認定委員会が発足しました。宮城県では、CDEJが仙台市内とその近郊に偏在している実情があります。療養指導士の偏在をなくすこと、地域連携を促進することで、糖尿病医療の質の向上に貢献することを目的としています。2017年から年1回の認定講習会、認定審査を始め、170名の宮城県糖尿病療養指導士が誕生しました。宮城県の糖尿病患者さんの支えとなる療養指導士となるよう、取り組んでいきたいと思っています。

## 福島県糖尿病療養指導士会

### 福島県糖尿病療養指導士会10年目の活動報告

●清野弘明

2008年に、コメディカルがよりよい療養支援を実施できるよう、福島県の日本糖尿病学会専門医と医師会の理事とが会議を重ね、県糖尿病療養指導士会の概要が決定しました。糖尿病に携わる医療スタッフの各学会の長に趣旨を説明し賛同を得て、福島県糖尿病療養指導士会を福島県糖尿病対策協議会内の1組織として認めていただき、活動が開始されました。2018年度までに総数964名が認定され、県内6支部に分け各地域で活躍しています。

## 茨城県糖尿病療養指導士会

### 茨城県糖尿病療養指導士の活動報告ならびに今後の課題

●道口佐多子

2012年に茨城県糖尿病療養指導士(CDEL)が発足し、現在までの合格者は41名です。今回アンケートを実施しました。CDEL取得後施設の待遇が高まった、患者に対して資格を伝えることができたという半面、資格取得後もスキルアップを望んでいる声が多かったです。また受験希望者が少ないのが現状です。CDELの質と満足度向上のため、また資格取得および継続への興味・関心を高めるため、段階別の糖尿病講習会の必要性を検討していきたいと考えます。

## 群馬県糖尿病療養指導認定機構

### 第3回群馬県糖尿病療養指導認定機構講習会アンケートより

●戸所文生

群馬県糖尿病療養指導認定機構は、第3回の受講者に、アンケートをとりました。「どこで講習会情報を知り得たか」の問いに、「自院の医師やスタッフより」が6割以上で、地域糖尿病療養指導士の知名度が上がってきたと思います。インスリン注射実技に関しては2割が難しいと答え、血糖測定器実技でも25%が穿孔に怖いと答えました。「糖尿病協会を知っていますか」に、3割が「知らない」と答え、協会のホームページの閲覧については7割が「見たことがない」と答えました。協会の知名度が足りないことを痛感しました。

## 栃木県糖尿病療養指導士認定機構

### はじめの1年を振り返って

●野澤彰

栃木県糖尿病療養指導士認定機構(CDE-Tochigi)は、糖尿病教育の正しい知識と技術の普及・啓発を図り、医師の指示下で熟練した療養指導を行うスタッフを養成・認定しています。2016年6月に発足し、2018年6月に第2回の認定者127名を認定しました。認定者は399名(うちCDEJ 24名)です。更新講習会では資格取得後の療養指導事例の報告などを行っています。質の向上を目指す療養指導士の育成に向け、情報提供や研鑽の機会を設けていきます。

## 東京糖尿病療養指導士認定機構

### 東京糖尿病療養指導士認定機構初年度活動報告

●本田正志

当機構は、東京の糖尿病患者さんとその予備群約200万人を支える層の厚い社会インフラを構築するため、2017年3月に設立されました。昨年は第1回の認定試験が行われ、主として医療現場における患者さんを指導する東京糖尿病療養指導士(東京CDE)280名、糖尿病の知識の啓発と予防にあたる東京糖尿病療養支援士(東京CDS)45名が認定されました。2018年度からはスキルアップ研修会や研修紹介制度を開始しました。認定者から、職場で大変役に立っていると評価をいただいております。

## 一般社団法人千葉県糖尿病対策推進会議

### 千葉県糖尿病療養指導士/支援士(CDE-Chibaの活動報告)2018

●三村正裕

千葉県糖尿病対策推進会議(DMC)は、2012年11月より千葉県医師会と共催で千葉県糖尿病療養指導士/支援士(CDE-Chiba)を開始しました。現在CDE-Chibaの人数は1257名で、毎年順調に増加しています。DMCでは、CDE-Chibaのレベルアップを目的として、スキルアップ研修会、学術講演会、CDE-Chibaフェスティバル、講習会を行っています。2018年はCDE-Chibaをより広く知ってもらうため、CDE-Chibaのポスターを作成しました。DMCは、CDE-Chibaが活躍できる活動を行っています。

## 埼玉県糖尿病協会

### 埼玉県糖尿病療養指導士認定制度発足について

●金子貴美江

埼玉県糖尿病協会では、日本糖尿病協会の支援を受けて糖尿病療養指導の強化を目的として、埼玉県糖尿病療養指導士(埼玉県糖尿病相談員)認定制度を設立しました。その特徴は、糖尿病の療養指導というより「患者さんに寄り添い相談相手になることで、糖尿病療養支援を行える」と考え、あえてCDELを「埼玉県糖尿病相談員」と呼んでいます。2017年4月に第1期生約300名が誕生、2018年は第2期生198名が合格し、計500名の方が糖尿病患者さんの支援に携わっています。

## 中信地域糖尿病療養指導士会

### 長野県 中信LCDE6年間の活動報告

●原口育美

2012年に発足した長野県中信地域糖尿病療養指導士会の認定者は215名となりました。2018年4月に第1期生の更新を迎え、現在186名が活躍しています。受講される方の職種も幅が広がりに嬉しく思います。育成講習会、スキルアップセミナー等の充実を重ね、今後より一層地域に貢献できるよう活動の幅を広げていきたいと考えています。

## 新潟県地域糖尿病療養指導士認定機構

### 新潟県糖尿病療養指導士(CDE-niigata)の活動報告

●丸山順子

1998年にCDEJを目指すメディカルスタッフのサポートとして新潟県糖尿病療養指導士育成推進協議会が立ち上げられ、多くのCDEJが誕生しました。その後、CDEJの受験資格がないメディカルスタッフのモチベーションや療養支援の質を高めることを目的に、またネットワークを地域に広げ、地域レベルで糖尿病の教育や啓発活動のできる医療者の育成が望まれ、2008年より新潟県地域糖尿病療養指導士認定機構(CDE-niigata)と改め、517名のCDELが誕生しました。現在、発足20年を迎え、地域に根差した糖尿病医療をするためCDEJとCDELが協働して活動をしています。

## 静岡中部糖尿病療養指導士養成運営委員会

### 静岡中部糖尿病療養指導士養成運営委員会 (SCL-CDE)の活動報告と資格試験結果について

●菅沼博茂

当委員会は、静岡中部糖尿病療養指導士 (SCL-CDE)を養成し、糖尿病患者、生活習慣病患者、CKD患者の健康と福祉の向上を目指し、地域医療に貢献することを目標とし3年前に発足しました。役員・メンバー (医師10名、看護師3名、理学療法士3名、薬剤師2名、管理栄養士2名、検査技師2名、歯科衛生士1名)、コメディカル全てCDEJで構成されています。今後は講習会への参加可能な地域を拡大、またSNS等を活用しSCL-CDE情報発信をしていきます。

## 三重県糖尿病協会CDEL認定委員会

### CDE三重を立ち上げて

●住田安弘

三重県糖尿病療養指導士認定制度は、2017年2月12日に第1回認定試験を行い、スタートを切りました。続いて2018年3月25日には、第2回認定試験を実施しました。第1回より遡ること3年前から、当支部主催のCDE人材育成講習会において、CDEL認定制度を開始する旨を発表してきました。その功あり、第1回16名、第2回20名を認定しました。またCDEJ保有者でCDELの認定を希望される人が第1回と第2回合わせて46名もあり、これからの県内での医療スタッフのあり方を考えさせられる結果となっています。いずれにしろ2年間で認定を行ったスタッフが合計82名に達していることは、今後の当県における糖尿病療養指導に大いに活躍していただけるのではないかと期待するものであります。そのため当支部として、様々な教育プログラムを提案していく予定です。

## 岐阜県CDEネットワーク

### 岐阜県CDEネットワーク"ともに歩む!"

●古田均

CDE岐阜は2013年3月に歩みを始め、2018年4月現在、資格取得者総数は351名となりました。CDE岐阜の一員として「患者さんの意識が前向きに変化した時」「指導の成果が治療効果として表れた時」にやりがいを感じる一方、「活動が糖尿病以外の他領域のスタッフに理解されない」「他の地域のCDE岐阜と連携できていない」「CDE岐阜のための講演の受講希望者が少ない」などの声も聞かれます。患者さんやその家族をチームの一員として支えるCDE岐阜として、1人で悩まず、横の連携を大切にしながらともに歩んでいきましょう。

## とやま糖尿病療養支援機構

### とやま糖尿病療養支援機構の立ち上げ

●八木邦公

とやま糖尿病療養支援機構は、日本糖尿病協会富山県支部理事会にて事務局を富山大学第一内科に置くように指名を受け、2017年6月に非営利法人として認定されました。同年9月にはHPを立ち上げ、受講生の募集を開始したところ、147名の応募があり、3回で計14コマの講義と1回の実習の上で修了認定試験を行い、2017年度は129名を「とやま糖尿病療養指導士」として認定しました。2018年度も113名の応募があり、昨年同様のカリキュラムにて講義・実習を行う予定です。

## 石川県糖尿病療養指導士研究会

### 石川県糖尿病療養指導士研究会の活動報告

●片田圭一

本研究会は、2002年4月に設立し、現在の登録会員数が230名です。研修事業として年4回の研修会を開催し県内全域の会員が参加しやすいように地方でも開催しており、また県糖尿病対策推進会議と共催し糖尿病療養指導研修会(5日間15時間)を行い、修了者は「石川県糖尿病療養指導士」として認定されています。啓発事業は、糖尿病協会や糖尿病対策推進会議の行事に「糖尿病劇場」を行うなど、親しみやすい企画を行っています。

## 滋賀県糖尿病療養指導士認定委員会

### CDE滋賀の活動報告と今後の課題

●村松典子

2014年にCDE滋賀認定事業を設立し、現在440名をCDE滋賀に認定しています。認定資格取得後の教育として、滋賀県から「糖尿病対策関連事業」の支援を受け、県内の各医療圏域単位のフォローアップセミナーを年7回開催し、認定者の恒常的なサポートを行っています。来年度は設立以降初めての認定更新を迎える年となり、1人でも多くの認定更新者を増やし、県内の糖尿病患者の療養活動を支援できる体制をサポートしていきたいと考えます。

## 京都府糖尿病療養指導士認定委員会

### 京都府糖尿病療養指導士 (CDE京都)の現状と活動報告

●下之内暢子

CDE京都では2013年度に認定を開始し、現在まで1197名の認定者が誕生しました。今年初めての認定の更新を迎えますが、「更新単位取得の困難」「資格の意義・魅力の不足」「経済的負担」などが明らかとなりました。e-ラーニングでの単位取得や、資格所有者・取得希望者自身が期待すること・思いの把握、現場・患者さんのニーズを掘り起こし、今後CDE京都の資格をどのように活かすかなどの検討が必要と感じています。

## 大阪糖尿病療養指導士認定機構

### 大阪糖尿病療養指導士認定機構 (CDE大阪)活動報告

●細井雅之

2012年に初めて認定したCDE大阪の有資格者も、2017年度末には合計986名となりました。2017年は初めての認定更新も行いました。新規受検者のための講習会と、更新者のための講習会を分けて行い、更新者にはケーススタディも行って実践力アップを目指しています。今後、更新率向上も目指し、CDE大阪の活躍の場を増やしていく方針です。

## 和歌山CDE認定委員会

### 和歌山地域糖尿病療養指導士 (WLCDE)活動報告と今後の課題

●佐々木秀行

2018年1月には初回の認定更新を行いました。更新率は34%と低率であり、その原因究明と対策が重要な課題となっています。最大の理由は、認定者が資格・能力を発揮できる活動の場が少ないことと考えています。CDEJ、WLCDE協働での予防啓発活動など、WLCDE取得者に活動の場や機会を増やすことが喫緊の課題です。また、ワールドカフェ方式での講習会などで、職種間の連携を強化することも重要です。最も重要なのは、若く活力のあるメンバーを増やすことです。

## 奈良糖尿病療養指導士認定委員会

### CDEなら初年度活動報告

●吉田直子

2017年度から奈良糖尿病療養指導士 (CDEなら)認定制度を開始し、初年度は57人の「CDEなら」が誕生しました。認定講習会は、患者さんの心に寄り添う支援ができるCDE養成を目標に、事例検討や血糖測定実技を通じて、患者さんの心理的側面を重視するCDEになっていただくように構成されました。「CDEなら」は、ブルーサークルに紅葉する大和三山と鹿をデザインしたバッジを胸に、奈良県の糖尿病診療を支えます。

## 糖尿病療養指導士兵庫県連合会

### 糖尿病療養指導士兵庫県連合会の活動報告

●六車龍介

2013年から兵庫県糖尿病療養指導士認定制度 (CDE兵庫)を設立し、認定に必要な教育セミナーと認定試験を毎年実施しています。5年間で計331名のCDE兵庫を認定しました。今年度は、糖尿病認知向上活動として伊丹のイオンモールにて、一般の方向けに血糖・HbA1c測定やSATシステムを用いた栄養評価を行いました。今後は伊丹市と共催でイベントを行っていくべく交渉中です。

## 岡山県糖尿病医療連携推進事業

### 岡山県における糖尿病医療連携の取り組み ~「おかやま糖尿病サポーター」認定とその役割~

●長田麻里

おかやま糖尿病サポーターは2014年度より認定を開始し、現在約2000名が認定されています。県内の各種医療機関をはじめ、調剤薬局、訪問看護、介護施設、行政、検診機関などに広く在籍しており、地域に根差した糖尿病医療をサポートすることが期待されています。現在は糖尿病の「治療」の部分を中心に事業を展開していますが、今後は予防、受診勧奨、治療継続、在宅医療まで一貫してカバーし、超高齢化社会に対応できる社会基盤づくりを目指して、スタッフ一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

## 広島県糖尿病療養指導士認定機構

### 広島CDE活動報告

●埴美知香

2011年の発足から7年目を迎え、認定者は505名となりました。今年度は第2回認定者145名中42名の方が更新され、更新率の低さが目立つ結果となりました。更新率向上のための対策として、単位数の大幅な変更を行いました。また、CDEの資格を活かせる場として、引き続き糖尿病性腎症重症化予防事業 (広島版)において、CDEによる療養指導を行っており、2017年度は119名に実施しました。2018年度は150名の予定です。それに伴い、今後は療養指導の質の向上についても取り組んでいきたいと考えています。

## 鳥取県糖尿病療養指導士認定機構

### 鳥取県糖尿病療養指導士制度2年目を迎えて

●檜崎晃史

2016年度からCDEL認定事業がスタートし、第1期53名、第2期30名、計83名のCDELが誕生しました。124名の県内CDEJと合わせて、計207名の糖尿病療養指導に精通した医療スタッフが県内に確保されたこととなります。鳥取県は全国47都道府県の中で人口が最も少なく、糖尿病死亡率が5番目に高く、糖尿病専門医が3番目に少ない県です。糖尿病療養指導士のネットワークを県内に遍く敷き詰め、糖尿病の療養環境を質的に高めていきたいと思っております。

## 島根県糖尿病療養指導士認定機構

### 島根の宝

●佐藤利昭

今年10期生48名が新たに認定され、20年間での島根県糖尿病療養指導士認定者は519名となりました。認定者は、各医療機関で糖尿病療養指導の中心的役割を担っているだけでなく、県内で開催される糖尿病関連の研修会や種々のイベントにおいても中心的役割を担っています。資格取得に当たっては、研修の2年間で受講料を含めて10数万円の出費を要します。取得後も特に給与に反映されるメリットは皆無であるにもかかわらず、よりよい療養指導をしたいとの思いで資格取得を志されるコメディカルの皆さんの熱意は、島根の誇りであり、正に「島根の宝」なのです。

## かがわ糖尿病療養指導士認定機構 (みとよ糖尿病療養指導士)

### 1年目の認定状況について

●米井泰治

1年目は79名を認定しました。今年の春が初めての認定でした。みとよ糖尿病療養指導士からの移行が51名と新規の申請者が28名で合計79名の地域糖尿病療養指導士が誕生しました。看護師41名、栄養士20名、薬剤師7名、歯科衛生士4名、理学療法士4名、臨床検査技師3名となっています。香川大学医学部を中心に医師会と糖尿病専門医と日本糖尿病療養指導士と連携しながら、理想的な研修や活動ができればと思っています。

## 愛媛地域糖尿病療養指導士認定制度委員会

### 愛媛地域糖尿病療養指導士の認定と活動

●中村慶子

愛媛地域糖尿病療養指導士(EDCE)は17年目を迎え、認定者総数は401人となりました。本年度の学術集会では、認定更新のための研修会の学習成果(グループワーク)を紹介しました。経済的な課題を抱える事例への支援では、そのプライバシーに介入する限界を問題点としつつ「医療者の考える優先度と、患者さんの考える優先度の違いをなくす支援が必要であること、そのためには、まず患者さんの話をよく聴くこと、その思いを確認することの重要性」を確認しました。

## 北九州CDEの会

### 北九州CDEの会 H29年度の活動

●松島昌子、大土貴美子、河原万寿美

「北九州CDEの会」では、2017年度ウォークラリー大会や市民糖尿病教室、地域講演会、まちかど糖尿病教室(ショッピングモールでの血糖測定や健康相談)等年間14件の事業を行いました。市や医師会の要請があれば連携して活動、一般の方々にも糖尿病やその治療の大切なことを伝えていきます。今後も多く市民の方々にこの活動を知っていただき、さらに活発化して「北九州CDEの会」の会員と共に糖尿病の啓発活動を進めていきたいと思います。

## 長崎地域糖尿病療養指導士認定委員会

### 長崎地域糖尿病療養指導士(LCDE-Nagasaki) 発足しました!

●藤田成裕

2018年2月17日に長崎地域糖尿病療養指導士認定委員会が発足し、同時に78名の長崎地域糖尿病療養指導士が誕生しました。ホームページ・認定証・ピンバッジ・周知用のポスターの作成を行いました。長崎県の特徴として、離島が多いなど僻地医療の問題を抱えています。このため、6月16日にはWeb回線を用いて、離島を含む複数の会場で同時にスキルアップセミナーを行いました。CDEJと協力し地域に根差した活動を行っていきます。

## 沖縄県地域糖尿病療養指導士会

### 沖縄県地域糖尿病療養指導士会(OCDEL会) 活動5年の区切りを迎えて

●高橋紗也子

当会は2013年から始まり、会員数は539名(初の5年の資格更新者40名を含む)です。糖尿病専門医が少ない沖縄県ではCDELによる各病院・診療所でのより質の高い療養支援が望まれます。加えて、年々、沖縄県民の健康指標は悪化しており、地域での健康啓発活動も課題が多くあります。そのため、新しい5年は地域貢献活動を充実させるとともに、CDEL同士での研鑽を行うことを目標としていきたいと思います。

## 徳島県地域糖尿病療養指導士認定機構

### 徳島県糖尿病療養指導士の課題

●鶴尾美穂

徳島県は2009年に糖尿病療養指導士認定制度を立ち上げ、現在596名のCDELが認定され、糖尿病フォーラムやウォークラリー、徳島マラソンの血糖測定等で地域に貢献しています。増加する高齢糖尿病患者を正しい糖尿病の知識を持ってサポートするため、徳島市医師会が介護職に対して徳島市糖尿病サポーター(TCDS)制度を立ち上げました。CDELとTCDSが協力し、医療と介護が連携して徳島県の糖尿病療養指導に取り組んでいきたいと思っています。

## 筑後糖尿病療養指導士会

### 筑後糖尿病療養指導士会 大牟田ブロックの 地域での取り組み

●武石千鶴子

福岡県筑後地区糖尿病療養指導士会は、1997年の発会から現在21年目を迎え、昨年度までに700名を超える認定者を迎えました。現在は437名の会員で、「ウォークラリー」、「筑後地区糖尿病の集い」、「世界糖尿病デー・ブルーライトアップ in 筑後」、行政との協力事業「まちかど栄養・糖尿病予防健康相談」、地域の健康展など、幅広く活動しております。2008年からは5つのエリアに副会長をおき、より地域に密着した展開を目指しています。

## 大分県糖尿病療養指導士会

### 大分県糖尿病療養指導士会20年間の推移

●脇幸子

大分県糖尿病療養指導士会が発立して20年! 認定者は850人弱、2018年の会員数は567人、退職・介護・結婚・転勤などが理由で入れ替わり10人ずつくらい増えている状況で、仲間作りは20年経っても課題です。また、2016年からかかりつけ医の大分県糖尿病相談医制度が発立し、糖尿病専門医や大分LCDELに加え連携の輪が広がりました。2018年は、所属施設や地域に大分LCDELのPOWERをアピールすることです。年間30イベント/3500人の血糖測定時に大分LCDELや糖尿病専門医・相談医の所属施設を示し、地域へアピール! その活動の様子を所属施設にアピール! 大分LCDELが所属施設の地域住民とのパイプ役になれるように頑張ります。

## 熊本地域糖尿病療養指導士認定委員会

### 2次医療圏ごとの研修会開催の試み

●西田健朗

熊本地域糖尿病療養指導士は、熊本県内の2次医療圏ごとに研修会を開催し、地域に根差したネットワークの構築を目指しています。2018年4月1日現在で744名認定しており、今年度も196名が受講しております。今後は、様々なテーマでスキルアップにつながるような研修会を開催するとともに、熊本地域糖尿病療養指導士が中心となって、療養指導カードの活用による療養指導の均てん化や指導情報の共有化を図っていきます。

## 高知県糖尿病療養指導士認定機構

### 高知県糖尿病療養指導士(CDE高知)の 現状2018

●藤本新平

CDE高知の認定は4年目を迎えましたが、保健師、助産師、准看護師、栄養士、歯科衛生士、視能訓練士、介護福祉士も含め、現在498名となっています。施設は、保健所、市役所、介護施設、調剤薬局も含め多岐にわたっており、これまでCDEJがいなかった地域にも波及しています。初回資格更新が1年後にせまっており準備も進めています。高知県でも糖尿病重症化予防プログラムが開始されており、CDE高知の活躍が期待されます。

## 福岡県糖尿病療養指導士会

### 福岡県糖尿病療養指導士会の現状と課題 アンケート 方式による意識調査結果より

●吉井千賀子

1999年に発足した福岡CDELは、今年発足20周年を迎えました。現在までに1253名が合格し活動を続けてきましたが、定年退職や転居等により2017年4月現在、889名が在籍し活動を継続しています。約30%(364名)が退会しています。退会、並びに更新しない理由を確認するため調査を行いました。結果「配置転換等でDM患者に関わる機会が少なくなりCDEとしての活動意欲がなくなった」との意見が多数を占めました。CDELの活動範囲は院内、地域等広範囲であることの認識が薄いことがわかりました。講習会等においてCDELの役割や活動の重要性を認識させることが重要と考えます。

## 佐賀糖尿病療養指導士会

### 佐賀糖尿病療養指導士会の 現状と活動報告

●江本晶子

佐賀CDE会は、415名が在籍し、「つなげよう、ささえよう、糖尿病の輪」をモットーに活動しています。今年県で糖尿病重症化予防診療ガイドが作成され、県糖尿病連携手帳と合わせて医療スタッフや患者をサポートするツールが揃いました。CDEのスキルが求められています。カードシステムやカンパセーションマップの受講補助制度を設け、スキルアップの対策にも取り組み始めました。地域に根差した活動に取り組んでいきます。

## 宮崎地域糖尿病療養指導士認定機構

### 発足から4年の歩み

～CDEL活動の現状と今後の課題～

●原田和子

宮崎地域糖尿病療養指導士が発足し4年が経過、411名のCDELが誕生しました。活動状況に関するアンケート調査によると、自施設で療養支援を行っている人は72.5%。内容は、個別指導(インスリンやSMBG導入、合併症支援)、集団指導、糖尿病委員会活動等でした。取得してよかった点は、専門内外の知識が深まり支援に自信がついた、やりがいが見つかったなどでした。今後は更新必須研修を見直したいと考えています。

